

# わか 若狭湾の水脈 耳川

豊かな森がつくる  
滋養豊富な水

耳川は、滋養と福井の県境を源流に、いくつもの支流を集めて若狭湾に注ぐ。ブナなどの森がつくる栄養をたっぷり含んだその清流は、田畑を潤して美味しい米や野菜を育み、また、鮎をはじめ川の幸や若狭湾の海の幸を育む。美浜ならではの美味の源ともいえる天恵の水なのである。

## はくれんのため 白練の滝

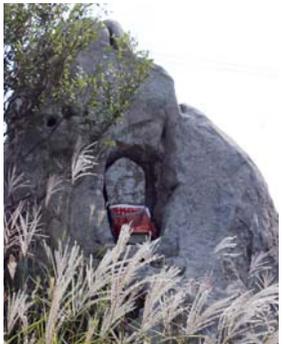
耳川支流の一つ雲谷山の溪谷には滝が多く、とくにこの白練の滝とその上の屏風ヶ滝は、水量が多い日には神秘的な表情を見せてくれる。



# 水源の森 神仏の降りたまふ山々

自然と祈りと暮らしが交わる、  
神祀りの山里 新庄

耳川は、新庄に連なる山々の水源の森から流れ出る。豊かな恵みを大地と海に与える川だが、ときに氾濫し脅威となる。新庄の人々は上流の山に祈り、水に祈り、山河と共存してきた。かつては炭焼きや山仕事で生計を立てる家が多く、常に暮らしの傍らに、山や川、木々や動物、天候、気候といった自然があった。



赤坂山の栗柄峠に祀られた岩の中の地藏



新庄の馬場集落と県境の山々

自然への畏怖と崇敬は、多彩な習俗に連綿と受け継がれてきた。なかでも「カイロ講」「弓打ち講」「八朔祭」(P.16・17参照)は、今も新庄を代表する伝統行事になっている。「カイロ講」は正月に子ども達が家々に吉兆の願をかけて巡る「戸祝い」と、狐を退散させる祈りが合わさったもので、各家で餅や菓子などを振る舞う。西洋のハロウィンにどこか似ている。また「弓打ち講」は農耕の吉凶を占う神事である。

呪術や占いに発した行事は、不思議さを漂わせつつ、山村の暮らしの息つかいとおらかな笑いに包まれている。こうした行事が、地域共同体の和を大切にする風土を培い、そして現代にも、人情に厚い新庄人の気質に、それが流れ続けている。

そして今、  
トレッカーに  
人気の山に

谷の奥深くに、信仰の山であったことを伺わせる名の山がある。松屋地蔵大権現岳(P.24参照)と大日岳(P.26参照)は、神仏習合思想の本地垂迹による名が付いている。そうした山の頂は、仏が神の姿で降りた聖域とされた。

修験僧が森に分け入り、修行に駆け巡っていたであろう新庄の山々。そこは今、若狭路美浜トレイルとして、日本海や琵琶湖の眺望も素晴らしい人気の登山コースになっている。

清冽な水のほとばしる沢を渡り、神聖な雰囲気漂うブナ林をゆけば、マイナスイオン効果も手伝って修験僧のごとく特別な境地に…、なるかどうかはわからないが、山頂に立てば気分は爽快。おおいにリフレッシュできる登山が楽しめる。



ベニドウダンツツジが自生し、秋の紅葉も美しい



夏には絶好の遊び場に

もみじんは耳川の上流で生まれたんだよ  
ここはボクのふるさとで遊び場なんだ

川は清らかで、アマゴやアユが泳ぐ姿も見えるよ!

